






病害虫発生予察情報予報第 10 号 (2 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		2 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生	並	並	260~263	 タマネギ べと病 一次感染株
		中晩生	並	やや少		
	ポトリチス葉枯症		やや少	少	264	
	白色疫病		並	並	265~266	
	ネギアザミウマ		多	並	271~272	
<p>1. べと病 一次感染株 (越年罹病株) は、2 月~3 月に発生盛期を迎える。本病の発生歴がある圃場では、現在発生が無くとも、今後発生する恐れがあるため、圃場の見回りと、罹病株の抜取りを徹底する。また、2 月下旬からの定期的な薬剤の予防散布を確実に実施する。</p> <p>2. ネギアザミウマ 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう、生育に応じた十分量を丁寧に散布する。</p>						
施設果菜類	<p>1. 病害全般 (灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、植物体への結露を防ぐ。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせることで防除を行う。特にイチゴやトマトの灰色かび病は発生が多いと予想されることから、防除対策を徹底する。</p>					
イチゴ (本圃)	ハダニ類	多	やや多	211~212	 ハダニ類	
	うどんこ病	やや少	並	201~203		
	灰色かび病	多	多	204~205		
	アブラムシ類	多	やや少	216~217		
	<p>1. ハダニ類 依然として平年より発生が多い状況が続いている。薬剤防除の際は、5~7 日間隔で系統が異なる薬剤を組み合わせる。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は殺ダニ剤による防除を行う。(令和 2 年 11 月 25 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号参照)。</p>					
キュウリ	べと病	やや多	やや多	180~181	 キュウリ 黄化えそ病	
	うどんこ病	並	並	178~179		
	褐斑病	並	並	183~184		
	アザミウマ類	やや少	並	193		
	コナジラミ類	並	並	192		
	<p>1. ミナミキイロアザミウマ : 黄化えそ病、タバココナジラミ : 退緑黄化病 媒介虫の薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。</p>					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	やや多	並	228~229	 トマト 灰色かび病
	灰色かび病	多	多	223~224	
	コナジラミ類	並	並	152~154 231~233	
	1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病罹病株の発生を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミの防除を徹底する。				
キク	白さび病	並	並	377~378	 白さび病
	アザミウマ類	並	並	382~383	
	アブラムシ類	並	並	384~385	
	ハダニ類	並	並	383~384	
	ハモグリバエ類	並	並	386~387	
	1. 白さび病 発生を抑えるため、換気を行うなど施設内の適切な湿度管理を図るとともに、発病前からの定期的な薬剤散布を実施する。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

2 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 2 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 3 年 1 月 21 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 2 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30 (6.7℃)	60	高
降水量	30	30 (77.5 mm)	40	並

Ⅲ. 2月の予報

タマネギ

定期調査 24 圃場
調査日：1月19～21日

1. ベと病（早生マルチ）

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.004%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - (2) 圃場の菌密度
近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）
 - (3) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

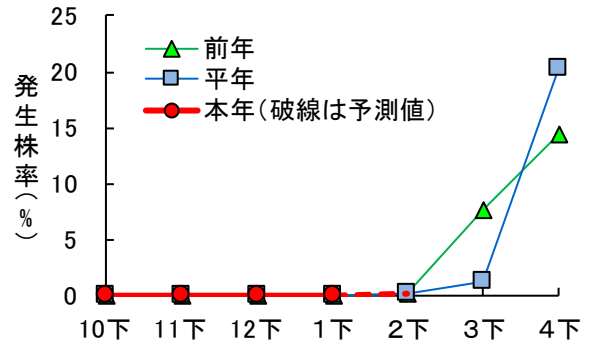


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

2. ベと病（中晩生）

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.002%、前年0.015%）
平年比：並（±） 前年比：少（-）
 - (2) 圃場の菌密度
近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いと推察される。（±～+）
 - (3) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

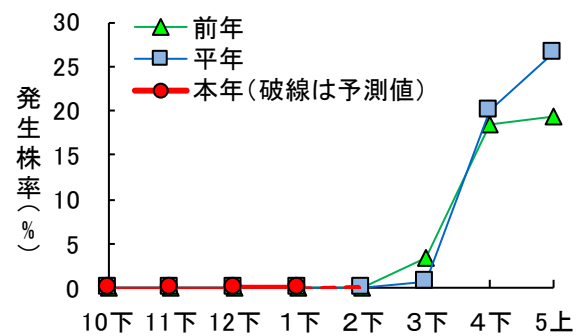


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：3.2%（平年1.1%、前年8.6%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：少（-）

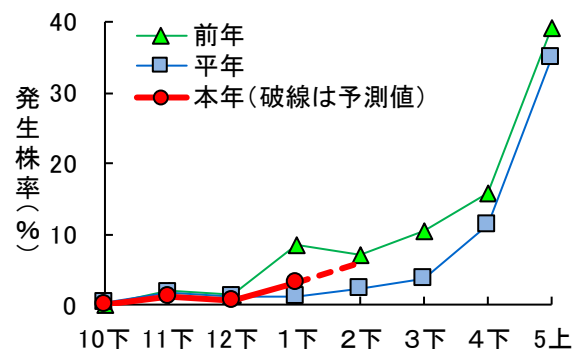


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

- (2) 2月の気象予報
気温は高く、多発生の条件〈+〉

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 4 圃場
調査日：1月19～22日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図1参照）
発生株率：35.3%（平年13.2%、前年28.0%）
平年比：多〈+〉 前年比：やや多〈±〜+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
(2) その他については、特記事項を参照する。

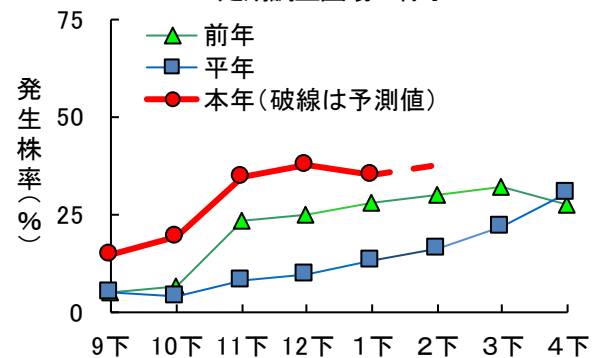


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年4.5%、前年0.5%）
平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件〈±〜+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 春先の発生を防ぐため、約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。
(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

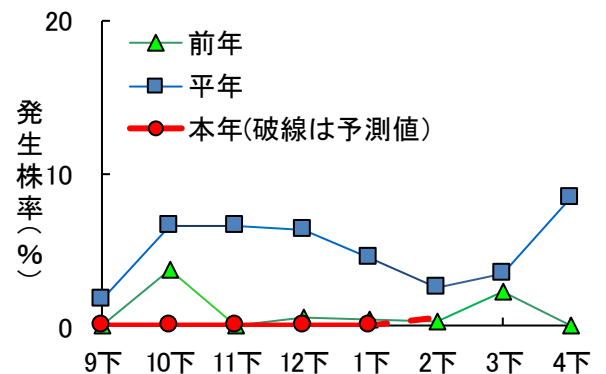


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.1%（平年0.1%、前年0.7%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

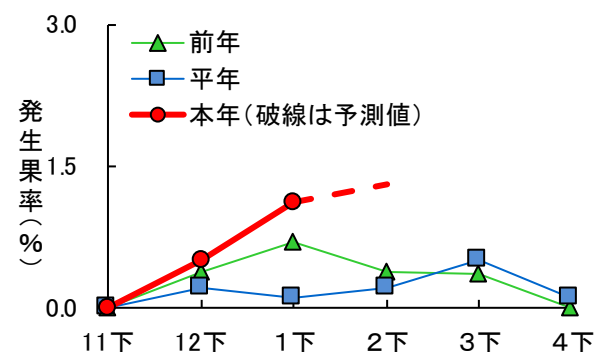


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

- (2) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。ブローアー等を用い定期的に花卉を除去する。
(2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.3%（平年0.4%、前年1.8%）

平年比：多〈+〉 前年比：やや多〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P520～524）。

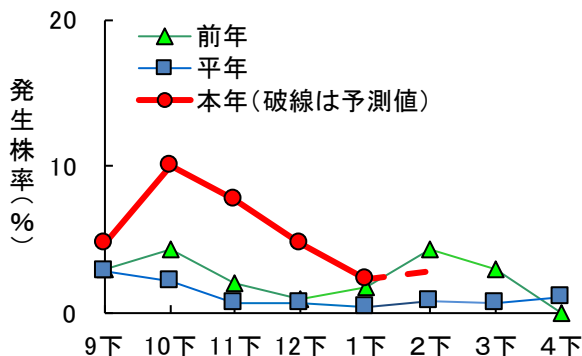


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

定期調査4圃場、防除員1圃場
調査日：1月19～23日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：5.6%（平年2.6%、前年2.9%）

平年比：やや多〈±～+〉 前年比：やや多〈±～+〉

(2) 2月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照する。



定期調査圃場の様子

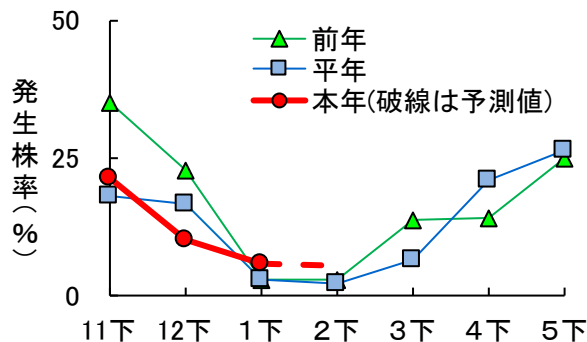


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.8%、前年1.4%）

平年比：やや少〈-～±〉 前年比：やや少〈-～±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

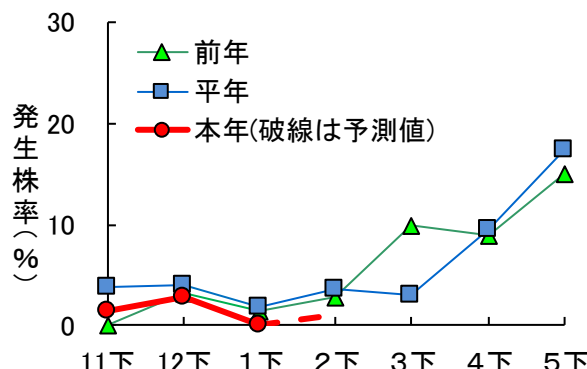


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：3.5%（平年3.7%、前年1.5%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ②2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
 - (2) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

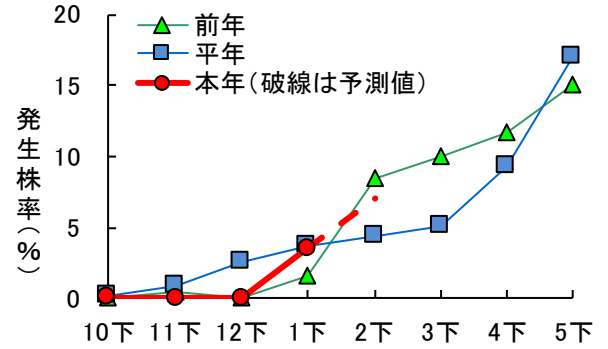


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：5.5%（平年2.9%、前年3.0%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）
 - ②2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
 - (2) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項（施設果菜類の項）参照

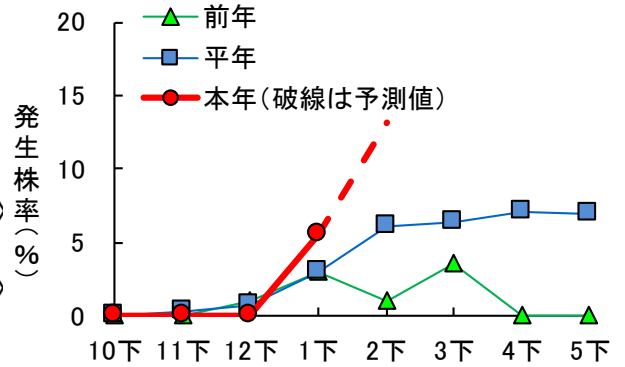


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：2.0%（平年1.5%、前年2.0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - (2) 2月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

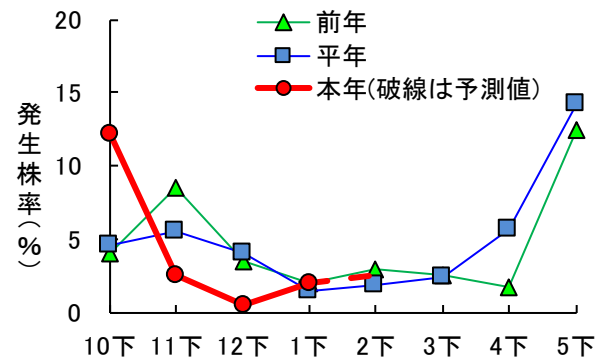


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率 0%（平年 0.6%、前年 0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 2 月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病を認めたら、罹病葉は除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) その他は特記事項を参照。

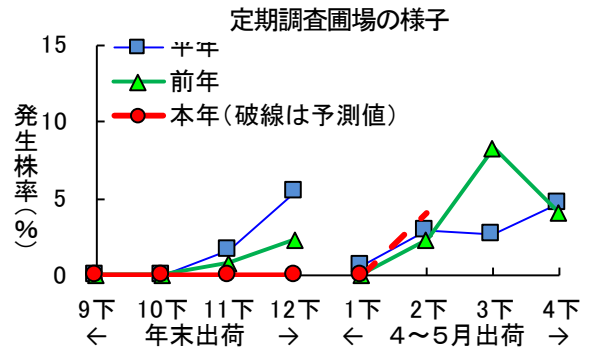


図1 キク白さび病の発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

